

使命を持ち生きるということ

片桐英数塾通信

大平総理大臣に学ばせて頂こう。 大いなる未来を切り拓くために

私には勉強好きで好奇心旺盛な知人がおりました。ちょっと遠方の人なのですが、つとつとの方に来た時に、たまに顔を出してくれました。彼と話しているとき、彼が感心する程、話題の尽きることがありません。ためになるやら、ならないやらなどお構いなく、時を浪費することを厭わず、時に腹を抱え、時に腕を組み、時に天を仰ぎ、そんなことをしながら話しておりました。割と強烈なテーマが多いです。世界情勢とか、経済のこととか……

そんな彼が、先日、少々興奮気味にやってきました。何事かと思いきや「やっ」と行ってききました。大平正芳記念館！とのたまわれる。そう言えば、彼、このところ、やっとは大平総理大臣のことばかり話しておりました。池上彰さんもテレビで歴代総理大臣について、「歴代総理の中で最も知的な総理」と言っていました。最近、大平総理大臣が注目されることが多いです。私も、「そうか！ そんな立派な総理大臣が地元出身だったんだ！」と、あらためて思い出していたのですが、彼の行動力は、全く天晴でございます。

靴から「ゴソ」と色紙を取り出し「これ、大平総理大臣の直筆の写しだそうですよ」と興奮はまだ冷めない。「え、何て書いてんの？」と聞くと、熱心に説明してくれ、「へえ」と感心して聞いていると、「大平記念館に行

ったことはないの？」こんなに近いの？」と目をクルクルさせながら逆に質問され、これには困って、「アッ、アッ」と言うばかりでございます。以前から地元の大先輩である大平総理大臣について無知であることに負い目を感じていたので、これも良いきっかけだと思ひ、今更ながらに大平総理大臣について学び始めました。

初めは大平総理大臣が何をされたかくらいは知っております。と、足跡をただなぞるうとしていたのですが、勉強を進めていくと、そんな事実だけを追いかけると、なかなか、思想の素晴らしさ、生き様に感動を覚えるようになっておりました。特に、「日中国交正常化」を行うにあたり、田中角栄首相と共に、とても難しい交渉にあたられている下りは、ちよっと涙ぐみながら本を読んでおりました。

大平総理大臣の思想について考える時、「橋田の哲学」「永遠の今(eternal now)」という言葉と度々遭遇します。「橋田の哲学」は、相反する二つの力が均衡を保ちつつ緊張した状態に、調和・中立を見出すとするもので、また、「永遠の今」は、未来を指向する力と過去の持つ引力という相反した方向に働く力が緊張し合い、均衡している状態が現在である、とする考えであると理解しております。いずれの考え方も、空間的、時間的な違いはあ

りませんが、相反する概念が緊張し、均衡が保たれている状態の中に、調和・中立を求めようとする思想であり、しかし、調和・中立を求めるといって、決して妥協したり迎合しようとするものではなく、力と力が作用し合う最も激しい作用点にこそ最高の調和・中立があると、とても激しく厳しく、気が遠くなるような気力を要する思想だと考えます。

私がこの難しい思想を理解するために考えた例えなのですが、百あるものとその反対の方に百あるものがある。それを調和させようと、それを五ずつに分けたりすれば数が減る。それなら百と百をぶつけ合い二百にしてしまおう、いや、相乗的に高め合わせて二百以上のものを得ようというものなのだろうか、あ、と思います。その考えからは、確かに得るものは大きくなるのだけど、ぶつかり合った時の衝撃は並大抵のものではないでしょう。その衝撃に耐え切れずに、どちらかの側に流れてしまつては効果は得られないし、ぶつかり合うのが一瞬ならば良いのです

が、恐らく、相反する考えがぶつかり合うと、瞬間で決着の着くことなどはないでしょうから、苦しみに耐えながら待つ気力が求められるはずで、このような思想を貫くには、まず、その衝撃に耐えるだけの自分自身の強さが確立しなければならぬでしょうし、その衝撃に耐えてやるぞ、という気概が絶対に必要だと思ひます。

「人」を守り、「国」を守り、「未来」を守るには、強さが必要です。それでこのような強さの得られる思想を求められていたんだらうな、と思ひます。だからこそ、この思想があるが、現代日本の礎を築くことが可能であり、さらに、現代に至つても尊敬され続けているのだと思ひます。

「任怨分諍(にんえんぶんしょう)」という言葉があります。実は先ほどの彼が手にしていた色紙に書かれていた言葉で、大平総理大臣が好んで使われていた言葉です。「任怨」は「思ひきつた新しい仕事をやる時は、決まって誰かの怨みを買うものだけど、恐れずにその怨みを受けよ。」ということ、「分諍」は「いったん志を共にしたなら、一心同体となりその怨みを受けて立つ気概がなければならぬ。」です。この言葉の意味を知り、大平総理大臣が初めて

総理大臣に就任された時に話されたこの言葉に、日本を思う深い愛を、その厳しさの中に感じてしまいます。

「政治と国民との間に距離がないようにきたら一体となりたい。つまり手軽に権力に頼る政治はいけない。国民と一体となつて、苦楽を共にする政治が第一と考える。第二は政治が甘い幻想を国民にまき散らすことはつしまなくてはならない。同時に国民の方もあまり過大な期待を政治に持つて欲しくない。両方の理解があれば、実のある政治ができる」と申し上げたい。(朝日新聞一九七八年十二月九日)

当時、大平総理大臣が立ち上げた政策研究会は九つあります。どれもが今もなお大きな示唆を与えてくれるものばかりです。例えば、「環太平洋連帯構想」は現在のAPECに繋がっており、その他、三十年以上も前に大平総理大臣が考えられた考えが、現在の世界の最先端の考えと近く、それで、今、大平総理大臣を研究している人が多いのだと思ひます。

大平総理大臣を過去の人として扱つて良いのだろうか。そんな疑問が脳裏を過ぎります。今という時代にこそ大平総理大臣の力が必要だと思ひます。大平総理大臣に学び、私たちの頭の中、心の中に、大平総理大臣にいくらかでも蘇つて頂くことが大切



河合サテライトネットワーク校
全統模試実施校
坂本教室 OFFICE
TEL 24-1337
FAX 82-6185
天神教室
TEL 23-1899
E-mail
info@katagirijuku.com



小学生募集！

君たちの可能性は無限大！！
「わからないことがわかった！」「できなかったことができるようになった」それが少しずつ積み重なって、大きな夢が実現できます。「わかった」と「できた」をたくさん経験すれば勉強が楽しくなれます。その学習習慣を今から一緒に身につけていきましょう！！
詳しくは坂本教室まで！

だと素直に感じます。地元の大先輩であり、親一生にとっては学校の先輩です。学ぶべきです。私もまだまだ大平総理大臣の勉強を始めたばかりで、偉そうなことなど言えないのですが、私が読んだ本がもしも参考になるのならと思ひ書き出しておきます。

最後に、次の言葉は、政策研究の報告書に付されたものです。報告書が提出された後、その頃、大平総理大臣は、史上初の衆参同日選挙という過酷な状況の中、お亡くなりになりました。私はこの言葉を、私たちが大平総理大臣の御遺言として考えたい。

日本人の将来進むべき道を探るという大事業が「私の世代に完成することがなくても、私は次の世代が力強く引き継いでくれることを信じている。」

保護者の方へお願い

お迎え時の車の混雑について、保護者の皆様にご理解とご協力をお願い致します。お迎えの際には、駐車場内での安全走行、エンジン停止にご協力いただくとともに、ご近所出入口などの路上待機、他の駐車場の無断使用などはご遠慮いただきますようお願い申し上げます。

- 参考図書
- 大平正芳「戦後保守」とは何か (中公新書) 福永文夫
 - 日中国交正常化 ―田中角栄、大平正芳 官僚たちの挑戦 服部龍二 (中公新書) 服部龍二
 - 大平正芳全著作集 1/5 (講談社) 茜色の空 (文藝春秋) 辻井喬

この塾通信は、二〇一二年一月のものです。表面の二〇一五年三月号と合わせて読んでいただければ幸いです。